

# レポート学習法(数学通信セミナー版)

## ■ 学習マニュアル ■

数専ゼミ・通信教育センター

平成29年11月16日(木)

100点を取るための「レポート学習法」通信セミナーの受講をお申しただき、ありがとうございました。

さっそく、ご希望のあった教材を使って「レポート学習法」で学習してみたいと思います。

次の手順に従って、教材の学習を進めて下さい。

## 勉強のしかた

### ▶教材の郵送

「レポート学習法」をするための次の資料が送付されているでしょうか、確認をお願いします。

(1) 「レポート学習法(数学通信セミナー版) ■ 学習マニュアル ■」  
この文書です。

#### (2) 学習用教材

ご希望のあった内容の教材です。入試に役立つ教材を入れました。

これには「学習資料」(★知識の整理★, ★解法の技術★)と

「演習問題」(★演習★【 】)が含まれています。

#### (3) 答案返送用封筒

お手数ですが、切手をお張り下さい。

送料は、プリントの枚数によって変わりますので、お近くの郵便局の窓口で封筒を出し、送料を教えてください。

## 【第1サイクル】

### 【1回目】 学習と答案の作成

- ① **学習資料** を学習する。  
【注】 学習資料とは★知識の整理★や★解法の技術★の部分
- ② **問題プリント** の問題を解く(答案を書く)。  
【注】 解けない問題には ? をつけておきましょう。  
【注】 問題とは★理解のチェック★や★演習★の部分

同封の封筒に答案だけを入れて返送する。  
(★解法の技術★などの説明だけのプリントは返送する必要はない。)

### 《塾の指導》

- ① **問題プリント** の答案を添削

【添削方法】  
間違っている部分に青ラインが引いてあり、プリントに付箋が貼ってある。

- ② 添削の結果を **学習記録** に記録
- ③ **添削答案** と **学習記録** を返送

### 【2回目】 まちがい直し①

- ① **問題プリント** の青ラインの下(あるいは空白部分)に、間違いを直した答案を書く。  
【注】 直せない問題には ? をつけておきましょう。

付箋のついている答案だけを返送する。  
(付箋のついていないプリントは返送する必要はない。)

- ① **問題プリント** の答案を添削

【添削方法】  
間違っている部分に赤ラインが引いてあり、プリントに付箋が貼ってある。(2枚目)

- ② **添削答案** と **解答書** を返送
- ③ **第2サイクルの教材** を添付
- ④ **弱点克服教材** を添付

### 【3回目】 まちがい直し②

- ① **問題プリント** の赤ラインの下(あるいは空白部分)に、間違いを直した答案を書く。
- ② **解答書** を見て、自己添削をする。
- ③ 間違いを直せないときは **解答書** を学習して間違いを直す。
- ④ 学力化をする。(ここが最も重要な部分です)

【弱点克服教材】  
既習事項で理解が浅かったり、間違っ覚えていたりしていると  
思われる部分を矯正するための教材です

\* 学力化の方法については、この項目の最後に書いてあります。

## 【第2サイクル】

### 【1回目】 答案の作成

- ① **第1サイクルで×問題のあるプリント** の赤丸の問題を、一切の資料を見ないでを解く。  
【注】 解けない問題には ? をつけておだけでよい。

郵送

【注意】 資料を見て解くと、学力の到達度が正しく測定できません。分かっていないのに、分かっていると判定されるので、勉強しても成績があがらない危険な勉強になります。

### 《塾の指導》

- ① **問題プリント** の答案を添削

【添削方法】  
間違っている部分に青ラインが引いてあり、プリントに付箋が貼ってある。

- ② 添削の結果を **学習記録** に記録

- ③ **添削答案** と **学習記録** (2回目) を返送

### 【2回目】 まちがい直し①

- ① **問題プリント** の青ラインの下(あるいは空白部分)に、間違いを直した答案を書く。  
【注】 直せない問題には ? をつけておだけでよい。

郵送

付箋のついている答案だけを返送する。  
(付箋のついていないプリントは返送する必要はない。)

- ① **問題プリント** の答案を添削

【添削方法】  
間違っている部分に赤ラインが引いてあり、プリントに付箋が貼ってある。(2枚目)

- ② **添削答案** を返送  
\* **解答書** は第1サイクルで送付済

- ③ **第3サイクルの教材** を添付

### 【3回目】 まちがい直し②

- ① **問題プリント** の赤ラインの下(あるいは空白部分)に、間違いを直した答案を書く。  
② **解答書** を見て、自己添削をする。  
③ 間違いを直せないときは **解答書** を学習して間違いを直す。  
④ 学力化をする。(ここが最も重要な部分です)

\* 学力化の方法については、この項目の最後に書いてあります。

## 【第3サイクル】

\* 第2サイクルまでで全ての問題を正解した場合には第3サイクルはありません。

### 【1回目】 答案の作成

- ① **第2サイクルで×問題のあるプリント** の赤丸の問題を、一切の資料を見ないでを解く。  
【注】 解けない問題には ? をつけておだけでよい。

郵送

【注意】 資料を見て解くと、学力の到達度が正しく測定できません。分かっていないのに、分かっていると判定されるので、勉強しても成績があがらない危険な勉強になります。

### 《塾の指導》

- ① **問題プリント** の答案を添削

【添削方法】  
間違っている部分に青ラインが引いてあり、プリントに付箋が貼ってある。

- ② 添削の結果を **学習記録** に記録

- ③ **添削答案** と **学習記録** (3回目)を返送

### 【2回目】 まちがい直し①

- ① **問題プリント** の青ラインの下(あるいは空白部分)に、間違いを直した答案を書く。  
【注】 直せない問題には ? をつけておだけでよい。

郵送

付箋の2枚ついている答案だけを返送する。  
(付箋が1枚だけしかついているプリントは返送する必要はない。)

- ① **問題プリント** の答案を添削

【添削方法】  
間違っている部分に赤ラインが引いてあり、プリントに付箋が貼ってある。(2枚目)

- ② **添削答案** を返送  
\* **解答書** は第1サイクルで送付済

### 【3回目】 まちがい直し②

- ① **問題プリント** の赤ラインの下(あるいは空白部分)に、間違いを直した答案を書く。  
② **解答書** を見て、自己添削をする。  
③ 間違いを直せないときは **解答書** を学習して間違いを直す。  
④ 学力化をする。(ここが最も重要な部分です)

\* 学力化の方法については、この項目の最後に書いてあります。

## 復習と学力化

間違えた問題は、完全に模範答案が書けるようになるまで、繰り返し練習して下さい。

練習するにあたって、一番大切なことは、次の3点です。

(1) 答案は紙に書きながら覚えること

書くことであやふやな理解があきらかになります。

そこは、きちんと覚えなおさなければならない部分です。

(2) 解法の全体の流れを覚えること

その問題を解くにはどのようなことを、どのような順序で考えるか、つまり、解法のアウトラインを瞬間に言えるようになるまで練習するという事です。

(3) 解法の型（タイプ）のリストを覚えること

これについては、単元全体の学習が必要なので、セミナーでは理解できないと思われます。

(塾ではやります。これは応用力の源泉になるからです。)

このような練習だけが学力を育てます。

なぜならば、解けなかった問題を解けるようにするわけですから、その分確実に学力がアップすることになるからです。

この学習を「学力化」といいます。学習で一番大切な部分です。

逆に、「学力化」をしないと、学習しているわりにはそれほどの効果が出ません。

## 質問について

- (1) 学習資料や解答書で理解できないところは、電話またはFAXで質問できます。
- (2) 山形市内に在住の方は、塾(数専ゼミ)へ行って教えてもらうこともできます。(木、金以外の午後4:30~9:00の間のいつでも)

## 数専ゼミ・東原教室のご案内

### ★数専ゼミ・東原教室で、

学校で学習する全単元について、体験していただけたような「リピート学習法」による指導を受けることができます。

詳しくは、数専ゼミのホームページをご覧ください。

**答案の郵送先：〒990-0034  
山形市東原町二丁目10-8  
数専ゼミ**

■質問等お問い合わせ先：TEL 023-633-1086  
FAX 023-633-1094

■インターネットで「入学案内書」をご覧になれます。

→ [suusenn.com](http://suusenn.com) へアクセスして下さい。画面でご案内いたします。